

アフリカ発 ジェンベ聞いて 一宮の演奏家、28日に講習会



ジェンベ公演の舞台(ギフ・ドゥ・ジェンベ提供)

お祭り太鼓として西アフリカに伝わる「ジェンベ」の人氣が高まっている。一宮市のジェンベ演奏家齊藤英嗣さん(34)が主宰する「ギフ・ドゥ・ジェンベ」の予定表は演奏会や講習会でぎっしり埋まっている。

ジェンベは丸木をくりぬいてヤギ皮を張った片面太鼓。高中低の多彩な音を素手で打ち出す。ひとつずつが自然素材を生かした手作りなので、同じ音が出る太鼓は二つとない。お祭りや祝い事のほか交友関係を深める様々な場で演奏される。

十数年前にギニアに滞在して知ったジェンベ音楽に魅せられ、帰国後も現地の演奏家と交流を続ける「いっぺん」を

いた。同好の伊藤直子さんと「ギフ・ドゥ・ジェンベ」を作っ

たのは2005年。結成後に開催された愛知万博でアフリカ文化に親しむ人が増え、活動しやすくなったという。

実家のある岐阜県各務原市と住まいのある一宮市を拠点に、初心者向け1日体験教室や上級者向けの連続講習会を開いている。28日午後2時から一宮市真清田1のスポーツ文化センターである市民講座「いちのみや大学」で市内の仲間と演奏を披露し、暮らして溶け込んだジェンベの魅力について講演もする。受講料1千円。問い合わせは、同大事務局(0586・72・5445)へ。(佐藤雄二)

朝日新聞

2010.02.22